

部 長 福 嶋 淳 代
研究主任 佐 野 厚 子
部 員 数 5 8 名

1 研究主題

子どもや学級の成長を目指した指導方法の研究
—小学校・中学校が連携した指導を目指して—

2 はじめに

コロナ禍の状況の中「小学校・中学校が連携した指導」は困難を極めた。緊急事態宣言の発令や行事の日程変更で交流の予定を組むことが困難になったが、デジタル機器を使って交流に臨み、小中連携に奮闘した学校があった。状況が落ち着いた10月に、実際に交流会を行ったブロックもあった。

3 研究経過

(1) 交流行事

今年度の交流行事 10月交流遠足、12月クリスマス会は中止となった。

(2) デジタル機器を使った交流（桃陵中ブロックで実施）

中学校でビデオレターを制作して交流先に送り、小学校の都合の良いときに見てもらうことにした。小学校では受け取ったビデオレターの動画を視聴し、手紙を書いて中学校に送った。ビデオレターを通して友達や担任の先生を知ること、6年生が中学校入学時に感じるギャップを和らげる良い機会となった。小学生はビデオレターの動画を何度も見返すことができ、中学生に対して親しみを持つことができた。中学生は小学生が書いた手紙を何度も読み返し、喜んでもらったことを実感した。

(3) 発表会とレクリエーション交流会（小牧中、応時中ブロック）

応時中ブロックでは「猛獣狩りに行こう・しっぽ取り・じゃんけん列車」のゲームを行った。小牧中ブロックではウクレレ演奏の発表とビンゴゲームを行った。

4 研究の成果と課題

6年生にとって中学校を知る貴重な機会となった。実際に交流を行うことが望ましいが、デジタル機器を使った交流の機会を持つことで入学時のギャップを減らす効果があった。デジタル交流ではリアルタイムの交流が実現できていないなど、今後取り組むべき課題が見えてきた。